

我羅門の ネットワーク通信入門 3

とうとう3回目ですね。さて、今回はどういう話をしましょうか。「ネットワーク通信」の匿名性という話をしましょう。(天の声：今回もシャシャリ出てきました。よろしく。早速ですが、我羅門のネットワーク通信での「匿名性」論議は、非常に偏った考えを持っているから、これがすべてなんて思わないようにね。まー私が適当にチャチャ入れるから大丈夫だと思うけど。)

もう御存じのことと思いますが、ネットワーク通信では、全てコンピュータもしくはワープロ画面の文字でコミュニケーションを取っていきます。ですから、相手姿が見えないため、どういった人間なのか分かりません。どういった職業の人間なのか。「男」なのか「女」なのか。「年齢」は幾つなのか。「独身」か「既婚」か「子持ち」なのか。姿どころか、声も聞こえない、相手の書いた文字すら分からない。だから、相手の素性を知る手だてがありません。(天の声：この辺のこと、前に書いたんとちゃうか) 本人を特定するものが何もありません。ですから、無責任に悪戯する人もできます。

こんなことが有ったそうです。(天の声：実際にその場に参加していたわけではないから、事実と違うのとちゃうかいな)

あるNETで、女性を対象にしたフォーラムがあったそうです。主催者側の好意で女性専用のフォーラムで和気あいあいと、会話を楽しんでいたそうです。そこに突然Kと名乗る人物が乱入してきて、楽しい会話をずたずたにしたそうです。(天の声：Kと言うのは、もちろん仮名ですよ。本当はもうちょっと気の効いたハンドル名だったな。) K氏自身本名と言うものを名乗らないから何処のどういう人かわかりませんが、ネットワーク通信の弱点をついた悪戯です。回りで見ていた人には、単なる悪戯で済んだかもしれませんが、悪戯された本人にしてれみれば重大な問題だったでしょう。(天の声：この事件は、一概にKなる人物が悪いとはいえないかもしれない。実際、我羅門も私も一部マスコミによって知った話である。ですから、記者の「ドラマチックに書いてやろう」という意思が働いていなかったとは言えないから、鵜呑みするわけには行きません。しかし、事実そのフォーラムは崩壊し、そこに集まった女性ネットワーク力達は、自らNETを主催しはじめたそうじゃ。んーんまたフォローになってしまった。我羅門がちゃ



<これが我羅門さん! ?>

んと説明すれば済むのに・・・)

話は少し変わりますが、草の根NETの多くはGUESTでアクセスすることを認めています。

(天の声:おーい我羅門「草の根NET」って、説明したか?まだしとらんのとちやうか。しやーないなほな私がちょこっと説明しておこうか。「草の根NET」というのは、個人が自宅でパソコンが遊んでいる時間などを利用して開局しているNETのこと。まー地道な活動という意味で「草の根」とでも言うのでしょうな。皆さんの身近な所で、それこそ同じ町内なんかで開局している場合もあるぞ。口コミとか、いろんなNETをまわりまわって、みつけてみたらいかがでしょう。うん?これ以上詳しく説明したらいかんて。なんでや我羅門。なーんや後で説明する予定やったんかいな。こりゃ失礼。では、話を「草の根NET」のGUESTアクセスの件にもどして....と)

GUESTというのは、正式会員になることなく通りすがり気分でアクセスできる特別の会員のことです。「草の根NET」がGUESTでのアクセスを認めているのは、「まー試してみて、自分にあっているかなと思ったら正式会員になってね」という点からです。そういったNETの中には、さらにGUESTでの書き込みを認めているところも有ります。別に正式会員にならなくても「コミュニケーションで遊びましょう」といった感じなのですが、ところが、このGUESTアクセスを利用して、悪戯をする人がいるのです。正式会員になったらSYSOPに住所と本名を明かす必要があります。(天の声:SYSOPとは、システムオペレータのことでシスオベと発音します。簡単に言えば、NETの管理人というところでしょうか。)多くの場合会則でそう決まっています。GUESTのアクセスなら本名を教える事も無いですから、本当に無責任なことを書き込みことができる。GUESTの無責任な書き込みのために廃局に追い込まれた「草の根NET」もあるそうです。SYSOPさんが、余りの無責任な書き込みのために精神的にまいってしまっって廃局してしまったということです。



そこで、本名でのみNETへのアクセス、ボードへの書き込みを許可しているある大手のNETがあるそうです。(天の声:後で説明があると思うけど、こういう主旨のNETを我羅門は、異常に嫌っています。まー個人の思考ですから深く考えないで軽く聞き流してください)「無責任な書き込みのないように本名で会話を楽しみましょう」という主旨だそうです。たしかに、いままで説明してきましたように、無責任な書き込みのためにまじめに会

話を楽しんでいる人が不快な思いをすることというのは、避けたいでしょう。

ここまで、ネットワーク通信の「匿名性」を使うことによる「影」の部分を紹介してきました。確かに「匿名」ということで無責任な発言をされる方も中にはいらしゃいます。でも、私はハンドルネームにも人格があると思っています。(天の声:おお 始まった我羅門の偏った考えの発表です。パチパチ)

ネットワーク通信の悪いところでもある「姿が見えない」ということは、逆にいうと「俗世間」のシガラミから離れられるということでもあります。職業も年齢も性別も(言葉の壁さえ越えれば)人種もない、一人の人間としての意見交換ができます。小学生と仕事をリタイヤされたご隠居さんとが対等に同じ問題について、論じることができます。相手が自分より目上なのか目下なのかなんて関係ありません。そこには、人間対人間としての会話があるだけです。

そういうことができるのも、「俗世間」から離れた世界だからではないでしょうか。先ほどご紹介したNETのようにそんな世界で本名というのは、どういう意味があるのでしょうか。

ネットワーク通信の中で個人を判別するのは、ハンドルネームだけで十分じゃないでしょうか。(天の声:確かに同じハンドルネームを使っている方が中にはいらしゃるでしょう。本名だって「同姓同名」というのは存在するのですからあって当たり前でしょう。でも、1つのNETに限ってみれば、同じハンドルネームの方はまずいないと思うけどな。)

かえって本名を使わない方が「俗世間」からはなれ、「俗世間」のシガラミからも離れられ、「一」人間としての会話ができるのではないのでしょうか。草の根NETのように身近な世界ですれば、やはり「隣の〇〇さんが。」てなことにもなりかねない。そうすれば、言いたいことも言えなくなることだってある。これが「俗世間」のシガラミじゃないでしょうか。

私は「我羅門」というハンドルネームを使ってネットワークの中で生息しています。勿論本名ではありません。たぶん関西で「我羅門」というのは、私一人でしょう。(天の声:関西には「がらもん」さんはほかにもいらしゃるようです。でもこんな変な漢字の当て字するのは、あんたぐらいやで、ホンマ。)そして、ネットワーク通信で知り合った人とは、街で出会ったとしても本名でなくハンドルネームで呼びあっています。たとえ本名を知っていたとしても、自分が知っているのはその人のネットワーカとしての姿であって、俗世間の姿じゃないからです。(天の声:しかし、街中でハンドルネームだけで呼びあう集団

がいたら変ですよ。ネットワークの集団と言うのは、年齢も性別もばらばらだから、周りの人がから見たら何の集団かわからんでしょ。しかもお互いを「ガラモン」だとか「ゴジラ」だとか呼びあうのだから・・・)

さて、これにて第三回も終了ということにさせていただきます。(天の声:しかし、ずいぶんと独断的なことを書きよったな。でも、みなさんこれらは、あくまでも我羅門個人の意見で、ネットワーク通信をしているすべての人の意見とは違うと思いますよ。みなさんも自分なりに考えて、ネットワークライフを楽しんでください。)最終回は総轄的な話ができたらなと思っていますが、どうなりますことやら。(天の声:本当どうなるのだろう・・・今回も締切すぎてからの入稿だと言うのに。最後ぐらいは編集長をやきもきさせることなく早めに入稿せいよ!)

